

ニッセイSDGsジャパン セレクトファンド (年2回決算型) / (資産成長型)

マーケティング担当
関 はるみ



国内初!「SDGs」によって新たに創出される 巨大市場にアクセスする日本株ファンド

エスディー・ジーズ

さまざまなメディアで、「SDGs」という言葉を目にする機会が増えていきます。SDGsとは「Sustainable Development Goals(=持続可能な開発目標)」の頭文字を取ったもの。国連サミットで採択された、2030年を期限とする国際目標です。経済・社会・環境の調和のとれた持続的な発展をめざし、「飢餓をゼロに」や「産業と技術革新の基盤をつくろう」など、包括的な17の目標が設けられています。

SDGsの達成に向け企業に求められている役割は、「社会貢献」という側面よりも、本業を通じた取り組みです。自社の製品やサービスの提供を通じて収益を獲得しながら、SDGsの達成に寄与することが期待されてい

ます。この点がCSR(企業の社会的責任)などの考え方との大きな違いと言えるでしょう。

当資料では、わたくし関が、「ニッセイSDGsジャパンセレクトファンド」の運用担当者に行ったインタビューを紹介します。

SDGsへの取り組みが 企業の成長ドライバーになる

「SDGsは国際社会が目指すべきゴールです。社会の課題を具体的に定義し、その解決に向けて世界全体で取り組むことが合意されたわけですから、2030年までには多くの変化が起こり、企業行動も変わってくる。新たなビジネスチャンスが生まれ、当然それを捉えに行く企業も現れてくるはず。つまり、SDGsへの取り組みが企業の成長ドライバーになるということです」と株式運用部でチーフ・ポートフォリオ・マネージャーを務める矢部能生は話します。

「今後、SDGs達成に向け、年間12兆米ドルもの巨大な関連市場が新たに創出されると予測されています」と続けるのは、運用企画部ESG推進室でチーフ・アナリストを務める林寿和。SDGsに関連して、再生可能エネルギーや環境負荷の低い次世代自動車、先端技術を活かした農業や医療

等、さまざまな分野において技術革新と市場の拡大が期待されています。

国内初、SDGsにフォーカスした 日本株ファンドを設定

ニッセイアセットマネジメント(以下、ニッセイアセット)は「ニッセイSDGsジャパンセレクトファンド(年2回決算型) / (資産成長型)」を2018年2月末に設定しました。当ファンドは、SDGsの達成に関連した事業を展開する日本企業のなかから、株価上昇が期待される銘柄に厳選して投資を行う、SDGsにフォーカスした国内初の公募投資信託です(Fundmarkのデータをもとにニッセイアセット調べ)。

当ファンドの組入銘柄は、どのように選ばれているのでしょうか。まずは投資対象である日本企業から、SDGsに関連した事業を行っている企業を選別します。その基準は、「社会貢献活動に注力しているということではなく、あくまでSDGs達成に関連した事業により収益を獲得している企業です」と話す矢部。「そのユニバースは約250銘柄で、ここまでする第1ステップです。第2ステップでは、SDGs関連事業が企業価値の向上にどれだけ寄与するのかを判断。第3ステップでは、企業業績の予想や株

価の割安度などを考慮して絞り込み、最終的には、40~60銘柄に厳選します」。

ニッセイアセットの分析によると、SDGs達成に関連した製品・サービスを提供する企業の株価は、市場平均に比べて堅調に推移しています。また、ニッセイアセット独自のSDGsおよび株価に関する評価レーティング上位の銘柄群は、更に高パフォーマンスとなっています(右図参照)。

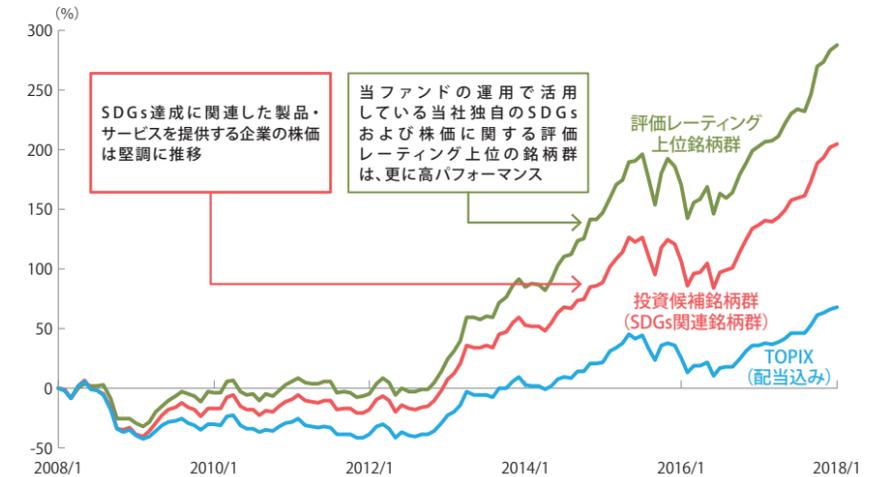
ちなみに、3月1日時点の同ファンドの組入上位銘柄には、医療機器製造のテルモ、繊維事業以外にも環境・資源・エネルギー問題に関連する製品を手掛ける東レなどが並んでいます。やや意外なところでは、金融系コンサルティング会社の野村総合研究所も上位銘柄の1つ。同社は金融機関に共同利用型システムを提供していますが、システムの共同利用で効率性が高まり、CO2の大幅削減につながっているといえます。

長期業績予想に関する長年の 蓄積が独自の運用手法を実現

これら組入銘柄の選定に当たって強みを発揮するのが、ニッセイアセットならではの運用・リサーチ体制です。保険会社グループの資産運用会社であるだけに、当社の根幹にあるのは、長期投資の考え方です。林は「当社では5年先までの長期業績予想をベースにした株価評価・投資判断プロセスを導入しています」と話し、「2008年には長期業績予想に欠かせないESG評価を運用プロセスに組み込みました。企業の中期経営計画でも見据えているのはせいぜい3年後くらいですから、その先を判断するに

SDGs関連銘柄のパフォーマンスについて

累積パフォーマンスの推移(2008年1月末~2018年1月末(月次))



は企業の環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)に対する考え方を見極めることが重要になるのです」と、長期投資におけるESG評価の重要性を語ります。

環境、社会、ガバナンスの観点から投資判断に取り入れたESG投資において、ニッセイアセットは日本の草分け的存在です。持続可能な開発目標であるSDGsはESGと密接に関わっていますが、具体的な目標と2030年という期限が示されているだけに、そのインパクトはより大きいと考えられます。「他社に先駆けてSDGsにフォーカスしたファンドを設定した背景には、ESG投資に対する長年の蓄積があります」と(林)。「SDGs関連銘柄を絞り込むだけならば、それほどノウハウは必要ありませんが、SDGs関連事業が企業価値の向上につながるかどうかを見極める手法は当社独自のものであり、そう簡単には真似できないと自負しています」

と、矢部も自信をのぞかせています。

SDGsによって新たに創出される巨大市場でビジネスチャンスを見出す日本企業に投資したい。そうした企業の株価上昇を享受するとともに、持続可能な社会の実現にも貢献したい。「ニッセイSDGsジャパンセレクトファンド」は、そんな投資家ニーズに応えることをめざすファンドです。



株式運用部 矢部 能生



運用企画部 林 寿和